

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT27099 看護師のキャリアを発揮する場面

～災害時、緊急場面での看護の役割を体験してみよう



開催日：平成27年8月2日(日)

実施機関：東京家政大学

(実施場所) (狭山キャンパス)

実施代表者：立石 和子

(所属・職名) (看護学部・教授)

受講生：中学生、高校生 32名

関連URL:

【実施内容】

■当日のスケジュール

1. 受付(9:30-10:00)

2. 開会式(10:00-10:15)

実施代表者の挨拶、オリエンテーション後、科研費の説明、分担者の紹介、実施協力の学生の事項紹介を行った。

3. 講義 ①「看護師の仕事について」(10:15-10:30)

看護師になるための課程の説明、さらに看護師になってからのしごとや働く場所、看護師の国家試験取得後のキャリアとしての認定看護師・専門看護師の紹介ともに、教育課程の説明を行った。

4. 講義②「災害時の実際の看護活動」(10:40-11:00)

看護師が実際活躍した場面のひとつとして、東日本震災のときに活動した現場を、写真などを含めながら説明した。そのときに、小中高校生でも注意できることとして、自分を守る方法を伝えた。

5. 演習①「災害時の避難所での活動～避難所での課題をどう解決できるか考えてみよう。」(11:00～12:00)

クロスロードゲームは、小学生、中学生、高校生と年代別にわかれグループ編成を行い実施した。参加者のほとんどが女子であったが、男子が数名いたため男子グループとして1グループ編成した。それぞれのグループに、学生をファシリテーターとして1名(事前に研修受けた学生)と書記1名を配置した。内容は、学童や生徒である自分、避難所での対応方法、親の立場になったときなど、参加者が立場を変えながら、震災時の行動を考える機会とした。

グループワーク後、発表会で意見交換をおこなった。そのとき、保護者グループからもの意見発表を依頼、参加者の意見と保護者との意見交換の場となった。



看護師の仕事について



災害時の実際の看護活動



クロスロードゲーム中

6. 昼食(12:00-13:00)

昼食は、学食に依頼しお弁当とした。



昼食中

7. 演習②「緊急時の対応～一次蘇生時の対応:歌とともに覚えよう」

(13:00-13:40)

食後は、場所を変え気分を転換した。まずは、アカペラサークルの学生に

よる歌を当日都合がつかなかったために事前にビデオに収録したものを放映した。その中に、心肺蘇生法替え歌を依頼し学生の寸劇付きのものとなった。その後AEDの使用方法を、まずは大人の場合をデモンストレーションした。さらに、参加に小学生もいたため、小学生の場合も実施した。最終的には、高校生に実際に実践してもらった。



AEDのデモンストレーション中

8. 紙芝居「災害にあったらどうなるか！」(13:40~14:00)

災害に関わる昔からの伝説を交えた紙芝居を、NPO法人の方へ依頼した。



紙芝居中

9. 「備え」として、今、できること(トイレと非常食体験)(14:10-14:40)

災害時にできることとして、はじめに非常食(缶ぱん、クッキー、あめ、水、アルファ米)を体験してもらった。次に、災害時のトイレの使い方を説明し、実際、どのくらいの水分が吸収できるか、色をつけた水を流し試した。水を流した、簡易トイレがどの程度になるかなど観察できる開会とした。



10. クッキータイム、フリートーキング(15:00-15:30)

「看護師になるためにはどうしたらよいか？」について、朝からともに活動した学生とともに会話を楽しみ終了した。

11. 終了式・解散(15:30-16:00):

アンケート記入、未来博士号授与



■プログラムを留意、工夫した点

少人数のグループを作成し、学生協力者とともに終日そのグループで実施した。小学生に対しては、友達同士の参加が多かったため、友達と同じグループにするとともに、学生配置を多くした。違う年代の交流は、お互いの刺激となり結果としてよかった。

クロスロードゲームに関しては、見学の保護者等のグループをつくり、参加者と保護者で意見交換を行うことでお互いの考えを知る機会とした。

プログラムは、午前中に机で考えるようなプログラムとしたが、できるだけゲームを取り入れて実施した。

午後は、場所を変えて、学生によるアカペラ音楽を参加者のために活用したり、動画で心肺蘇生法を伝え、体を動かしたり、目線を変え紙芝居を実施したりと、体を使うようにした。

■事務局との協力体制

- ① 事務担当者が振興会への連絡調整と、提出書類の確認・修正を行った。(日程変更など)
- ② 事務担当者が、関連部門へ連絡し大学のホームページにより本授業についてPRを行った
- ③ 事務担当者が委託費の管理および物品の発注、支出報告書を行いました。

■広報活動

- ① 地域推進センター(山本和人、織田文代)にて、近隣市の教育委員会への協力依頼を行っていただいた。
- ② 附属中高校の事務部長には、学校内の生徒へのアナウンスとともに、学校紹介のセミナーにて広告していただいた。
- ③ 大学のホームページへの掲載をおこなった。
- ④ 近隣の自治会や災害に関わるNPO法人などへ広告を依頼した。
- ⑤ 地域の間ケーブルテレビにて取材を依頼し、間ケーブルテレビ契約家庭のみではあるが放映された。

■安全配慮

参加者全員分の障害保険に加入しました。また、協力の学生に関して、事前にオリエンテーションを実施した。さらに、当日は、何かあったときのために、教員に1名研究室への待機を依頼した。小学生が移動するときには、グループ毎に学生がついて移動を行った。

■今後の発展性、課題

今回実施したことで、新設学部であることで今まであまりなかった在校生の縦のつながりが得られ、学生の成長につながった。災害時の準備教育としては、今回導入程度であったとしても、災害に備える教育は、常に実施することが必要であるため、毎年繰り返すことも大切ではないかと思った。看護師目線での災害看護活動を広げることで看護師のキャリア教育の一助となれると考えた。

今後の課題は、中学生を対象に行いたかったが、中学生は最もクラブ活動等で忙しい時期であった。さらに、地域のイベント、学校行事など日程を決定する際に、近隣の状況を知る必要があった。隔年程度に、対象者を中高生と小学生を交互に実施するなど工夫も必要であろう。

【実施分担者】

谷岸 悦子 看護学部 准教授
齋藤 麻子 看護学部 講師
齋藤 正子 看護学部 講師
太田 美帆 看護学部 講師
有澤 舞 看護学部 助教
長嶋 文子 看護学部 助教

【実施協力者】 19 名

【事務担当者】

野々村 宜政 狭山学務部学務課長